

自分の家を建て直した。

その人は森で木を伐り、



先祖になる

『蟻の兵隊』『延安の娘』池谷 薫◎監督作品

2013年
ベルリン国際映画祭
エキューメンカル賞特別賞

2013年
香港国際映画祭
グランプリ

平成25年度
文化庁映画賞
文化記録映画大賞



岩手県陸前高田市在住、佐藤直志 77歳の震災後を描いた
愛と勇気のドキュメンタリー。

プロデューサー●権 洋子|撮影●福居正治|録音●青田直也|編集●田山晃一|音響構成●渡辺丈彦|HD編集●椿 学|スチール●増池宏子|デザイン●渡辺 純
製作・配給●連ユニバース|宣伝プロデューサー●市川 篤|宣伝●PALETTE|助成●文化芸術振興費補助金 |2012年●日本●カラー●デジタル●118分●Vista|© Ren Universe, Inc.

senzoinaru.com

先祖になる

家が流されたらまた建てればいい 大昔から人はそうやってこの土地で生きてきた

男の名は佐藤直志。岩手県陸前高田市で農林業を営み、仲間から“親分”と慕われている。彼の家は1000年に1度の津波で壊され、消防団員の長男は波にのまれた。生きがいを持った男に何ができるのか？直志はひとつの決断をくだす。元の場所に家を建て直そうというのだ。自分はきこりだ。山に入って木を伐ればいい。友人から田んぼを借り、

田植えもしよう。仮設住宅には何があってもいけない——。土地に根ざし、土地に生きる人々の行く末を想う彼の強さと優しさは、少しずつ周囲を動かし、生きることの本質を問いかけていく。忍び寄る病魔、耐えがたい腰の痛み、遅々として進まない市の復興計画……。数々の障壁を乗り越えて、77歳の彼は夢をかなえることができるのか——。

大ヒット作「蟻の兵隊」につづき“老人力”全開のガンコ親父を 池谷薫監督が見つめたヒューマン・ドキュメンタリー

本作は、中国残留日本兵の悲劇を描いた傑作ドキュメンタリー「蟻の兵隊」が異例のロングラン・ヒットとなった池谷薫監督の最新作。震災からひと月後に陸前高田を訪れた撮影チームは、そこで佐藤直志というひとりの老人と運命的な出会いを果たす。復興への夢を語る彼の姿に見惚れた池谷は、前作に引きつづき孤軍奮闘する“ガンコ老人”を追うことを決意。寄り添うように撮影を重ね、困

難に屈しない“日本人の底力”を描き出していく。撮影期間1年6カ月。東京～岩手往復の走行距離は5万キロに達した。頑強な肉体と茶目つ気たっぷりのユーモア。枯れた中にも残り香のように漂う男の色気。観るものをとりこにする主人公の姿は、戦争や災害から立ち直ってきた“日本人”とは何なのか、人が生きていくとはどういうことなのか、静かに語りかけてくる。



<http://senzoninaru.com>

■第12回 心ひとつに3.11 上映会

2024年3月10日(日)
13時半～16時(開場13時)
おおぶ文化交流の杜 allobu
(愛知県大府市柘山町六丁目150-1)
参加費:無料 事前申込:必要
対象:中学生以上 定員:80名

【申込方法】

2024年2月10日(土)から以下のいずれかよりお申し込みください
①Google フォーム(右のQRコードより読み込み)
②おおぶ文化交流の杜図書館総合カウンターにて受付
③電話申し込み 0562-48-1808(おおぶ文化交流の杜図書館)

